

日本選手権 堂々の学生旋風

2年連続優勝!!

コロナに負けるな!
ハンドボール 女子

OUHS
OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES
スポーツ

大体大

発行責任者
大阪体育大学広報室
室長 大坪 康巳
編集長 和泉 かよ子
大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
電話 (072) 453-7021
FAX (072) 453-8818
協力=教育後援会・校友会

第35号

100

NAMISHO GAKUEN
100th Anniversary



応援してくれる人にも
感動と元気を与えられる
試合をしたい

第72回日本ハンドボール選手権

2020年12月23日〜27日
石川県金沢市・いしかわ総合スポーツセンター

大阪体育大学ハンドボール部女子は2020年12月23日〜27日、金沢市内で開催された第72回日本ハンドボール選手権大会に出場し、2年連続で準優勝に輝いた。強豪の実業団チームが集結する日本最高峰の大会で、決勝戦の相手は昨年と同じ北國銀行(石川県)。23〜30で敗れたが、最後まで食い下がる大熱戦を展開した。2020年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のためクラブ活動の停止期間が2カ月半もあったうえ、チーム作りの貴重な場である春の関西学生リーグ戦は中止。史上初の8連覇を目指していた秋の全日本学生ハンドボール選手権(インカレ)も中止になった。日本選手権が2020年度唯一の公式試合となり、練習不足、調整不足の逆境を乗り越えて価値ある準優勝をつかんだ。

準々決勝は第2延長の大激戦を制す

試合前、楠本監督は新型コロナウイルスの影響を受けたが、けががなく今日を迎えられたことができたのは何より。4年生は学生生活の集大成として臨んでほしいと話した。初戦は富士大学(岩手県)と対戦。大体大が得意とするディフェンスからの速攻攻撃がピンポイントで、39〜42で快勝。2019年度までインカレを7連覇してきた学生女王の力を貸してくれた。2回戦は主将の相澤育(体育4年)は準決勝

からは実業団チームとの対戦となるのを受けて、楠本監督はこの大会では生徒監督でリードをさらに広げ、42〜29でアラマレを撃破した。JHLのチームを大差で破り勢いに乗って臨んだ準々決勝は、僅差で追いつかれたが、後半、エース中山佳穂(体育4年)の強打で追い付き、第2延長に突入する。同点迎えた第2延長残り2分、中山が強打を決め、残り



五十ノ中山佳穂(体育4年) 準決勝

高木奈央(体育3年) 準決勝

決勝戦は北國銀行

決勝戦の相手、北國銀行は昨年(2019年)の同大会27の惜敗をした。大体の卒業生が主力のチームで、楠本監督は「こちらの手の内は完全に知られている。チャンレンジ精神でぶつかっていこう」と話している。試合は北國銀行が開始早々から確実に得点を重ね、大体大は2度のタイムアウトを経てディフェンスを立て直し、25分過ぎには12-13の1点差に肉薄する。しかし、その後は北國銀行の高く厳しいディフェンスやゴールキーパーの好守に阻まれて、連続得点が奪えず、23〜30で敗れた。主将の相澤は「自分たちがやり残ったプレーをさせて



北國銀行を相手に粘る三決勝

23-30の熱闘

が育てきれずほとんど4年生のチーム戦った。下級生はこの試合自ら燃き付け、2年連続、日本選手権で実業団相手に堂々の戦いをした。大体大ハンドボール部女子は、準々決勝に君臨し続けるだけでなく、日本選手権優勝という新たな目標が生まれた。最後は悔し涙で終わった4

5リードしていたが、その後追い上げられ、13-14で逆転された。後半早々、エース中山佳穂(体育4年)をマークするミハシタ、そこから1点を奪い、23-23の同点で延長戦に突入する。延長戦はエース中山佳穂(体育4年)の強打で追い付き、第2延長に突入する。同点迎えた第2延長残り2分、中山が強打を決め、残り



ベンチの楠本監督の前で選手たちがハイタッチ=決勝



気迫のディフェンス=準決勝

関西リーグ3年連続6回目の優勝

コロナ禍で総理大臣杯、インカレ中止

コロナに負けるな!
サッカー男子



2021年度も感染予防を徹底

◆コロナ対策◆

200人を超える大所帯の大体大サッカー部は2020年、新型コロナウイルス対策を最優先し、感染予防を徹底し、2年連続で優勝した。2021年度も感染予防を徹底し、2年連続で優勝した。



2020年度の第98回関西学生サッカーリーグは、新型コロナウイルスの影響で毎年4月〜6月に行われる前回は中止になり、9月〜11月の後期のみが行われた。大阪体育大学は11戦7勝3引き分け(近畿大学戦は不戦勝)で、3年連続6回目の優勝を果たした。2020年は夏の総理大臣杯、冬の全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)もコロナ禍で中止。関西のチームと戦った公式戦がなかった。関西王者の大体大として関東のチームに勝利するのは重要な役割。2021年は関東勢にぶつかるといわれるのを期待して、新チーム作りにも乗り出す。

◆関西リーグ戦◆

関西リーグ戦第1節の相手は、昨年度(2019年度)2部Aリーグから1部に昇格した同志社大学。大体大は安定した守備と冷静な攻撃を見せ、1-0で勝利した。第2節の大阪学院大学戦は両チームのシュート数は1本差、大体大が1-0で制した。第3節の甲南大学戦は1-1で引き分け、第4節の京都産業大学戦は前半は一進一退の攻防を耐え、後半は一進一退の攻防を耐えて1-0で勝利した。第5節、相手の近畿大学はサッカー部員の大規模感染が覚悟されたため出場を辞退し、大

体大の不戦勝。第6節の阪南大学戦は、大体大が前半で得点して2-0で取り返し、後半は開始直々に阪南大にゴールを奪われるが、追加点を決めて3-1で勝利した。第7節の関西大学戦は、MF大崎航時(体育4年)が攻守に貢献。DF平山裕也(体育2年)、DF三輪大智(体育2年)らが冷静な守備を發揮し、優勝を狙う関西大を3-1で圧倒した。第8節の立命館大学戦は激しい攻防の末、0-0で引き分け。第9節の桃山学院大学戦は、大体大は最後まで果敢に攻めるシュートが決められず、0-0で初めて敗北した。勝利した方が優勝に大きく

得点できず0-0で引き分けた。表彰では、キャプテンのDF有働平(体育4年)が最優秀選手賞(関西サッカー協会杯)、優秀選手賞、優秀選手賞、ベストキープン賞を受賞。GK長谷川大(体育3年)とFW高橋一輝(体育3年)が優秀選手賞を受賞した。キャプテンのDF有働平(体育4年)が最優秀選手賞を受賞した。

◆第98回関西学生サッカーリーグ(後期)◆

2020年度の第98回関西学生サッカーリーグは、新型コロナウイルスの影響で毎年4月〜6月に行われる前回は中止になり、9月〜11月の後期のみが行われた。大阪体育大学は11戦7勝3引き分け(近畿大学戦は不戦勝)で、3年連続6回目の優勝を果たした。2020年は夏の総理大臣杯、冬の全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)もコロナ禍で中止。関西のチームと戦った公式戦がなかった。関西王者の大体大として関東のチームに勝利するのは重要な役割。2021年は関東勢にぶつかるといわれるのを期待して、新チーム作りにも乗り出す。



最優秀選手賞(関西サッカー協会杯)、優秀選手賞、優秀選手賞、ベストキープン賞を受賞したキャプテンのDF有働平(体育4年)

コロナ禍続く2021年も学生主体で

コロナに負けるな!
バレーボール男子



◆インカレ出場 果たすも初戦敗退◆

秋学期リーグ戦は熊谷大学に3-0、立命館大学に3-1、甲南大学に3-1、同志学院大学に3-1で勝利し、近畿大学に0-3で敗北。順位決定戦は再び近畿大に1-3で負け、2位になった。この成績で第73回秩父宮杯吉本バレーボール大会男子選手権(インカレ)の出場権を得、2020年12月1日、岐阜協立大学と対戦。結果は0-3でストレート負け。浅井監督は細かな指示を出して、2020年春から夏にかけてクラブ活動が停止になり、学生らは自宅で自粛期間中も練習メニューをこなしてきていた。浅井監督は細かな指示を出して、2020年春から夏にかけてクラブ活動が停止になり、学生らは自宅で自粛期間中も練習メニューをこなしてきていた。

◆関西リーグ9位発進から2位に!!◆

2020年の関西大学バレーボール連盟のリーグ戦は、春季リーグは新型コロナウイルスの影響で中止。感染拡大がひとまず収まりつつあった秋季リーグ戦のみ開催された。大阪体育大学の開幕順位は12大学中9位(1部)。かろうじて1部に踏みとどまっている状況だったが、秋季リーグ戦は5戦4勝1敗の快進撃でリーグ2位に大躍進した。浅井正監督は2位になったのは40年ぶり」と喜び、「大阪体育大学は3月半ばからクラブ活動を停止したが、6月初段階的再開に踏み切った。他大学に比べて再開が早く、夏場にリーグ戦に向けて練習することができたのが勝因。裏を返せば、他大学は準備不足だったと分析する。



2020年末にコロナ感染者が急増し、2021年に入って早々、またもや政府の緊急事態宣言が大阪府にも発令された。コロナ禍がまた続くとある2021年を見据え、浅井監督は「大会の延期や中止はあり得るもの、いちいちがっかりしたりイライラしても仕方ない。大学生として、勉強とクラブ活動を両立して人間性を高めるという原点を大事にし、学生自らが主体となって取り組む方針の下にバレーボールと向き合っていく」と話している。

吉武史晶(体育4年)

コロナに負けるな! 陸上競技



坂本達哉 (M2年)

日本陸上競技選手権 2020年10月1日〜3日 / 新潟市・デンカビッグスワンスタジアム 男子やり投げ 坂本3位 自己新記録 78メートル07

大阪体育大学陸上競技部の坂本達哉(大学院博士前期課程2年)が10月1日、実業団も含めた日本一を競う第104回日本陸上競技選手権の男子やり投げで87.07mの自己新記録を3位入り、表彰台に立った。この大会の女子やり投げでは武本紗栄(体育3年)が55.66mで2位に入賞した。坂本は4回目の試投を終え、

天皇賜盃第89回日本学生陸上競技対校選手権

2020年9月11日〜13日 / 新潟市・デンカビッグスワンスタジアム

男子やり投げ 坂本優勝 女子やり投げ 武本自己ベストで準優勝

天皇賜盃第89回日本学生陸上競技対校選手権が9月11日〜13日、新潟市・デンカビッグスワンスタジアムで開催され、大阪体育大学は投擲競技のやり投げで、男子は坂本達哉が78.07mで優勝、女子は武本紗栄(体育3年)が57.43mで準優勝した。武本は準優勝ながら自己ベスト記録を更新し、大学に入ってから納得できる試合がなく悩んでいたけれど、今回のインカレで長いトンネルを抜けた感じがする」と晴れ晴れした表情。



武本紗栄 (体育3年)

第97回関西学生対校選手権大会

2020年10月20日〜23日 / 大阪市・ヤンマーフィールド長居

女子ハンマー投げ 高橋が大会新記録で優勝

陸上競技の第97回関西学生対校選手権が10月20日〜23日、大阪市のヤンマーフィールド長居で行われ、大阪体育大学の陸上競技部は金メダル6個、銀3個、銅1個を獲得した。男子は砲丸投げで下浦大輝(体育3年)、やり投げで坂本達哉が優勝。トラックでは400mで岩崎立来(体育2年)と、5000mで大坂祐輝(体育4年)が銀メダル。



高橋紗湖 (M1年) = 2019年9月撮影



陸上部の練習風景 (2020年6月撮影)

阪神リーグ4位 コロナ禍での練習不足影響



2020年度阪神大学野球連盟秋季リーグ

2020年9月21日〜10月20日 / 大阪府吹田市・万博記念公園野球場ほか



杉本雄志 (体育2年)

2020年度の阪神大学野球連盟秋季リーグ戦、大阪体育大学は10試合3勝4敗3引き分け(2試合は未戦勝)で、順位は6位中4位だった。新型コロナウイルス禍で試合時間を短くする大会ルールが導入され、1試合で1日3試合をこなすため日程も短縮された。大阪体育大学はコロナ感染が発生し、関西国際大学と天大の4試合は不戦敗となった。大体大の中野和監督は「本当にコロナの影響が色濃く出たリーグ戦だった。コロナ禍で練習不足になった大学として、練習できた大学の差が出た」と振り返る。



中野和 (体育3年)

大槻龍城 (体育3年)

中村英太 (体育3年)

神田温 (体育3年)

前蘭溪優勝

2020年10月30日〜11月1日 堺市・金岡公園体育館



前蘭の試合

レスリングの西日本学生選手権が10月30日〜11月1日に堺市で行われ、大阪体育大学のレスリング部主将、前蘭溪(体育3年)がグレコローマンスタイルの67kg級で優勝した。この大会で大体大選手が優勝するのは20年ぶり。

新型コロナウイルス禍では3月から6月初めまでクラフ活動が停止し、活動を再開しても格闘技は感染予防の観点から通常の練習ができず、期間も短縮された。前蘭は「一僕のみは体力なので、とにかく体力を落とさないことを心がけた。練習自粛中は、知り合いを開放していただいたので、そこを使わせてもらってトレーニングをしていました。」

西日本学生選手権では、準決勝で徳山(山口県)のライバル選手を破った。グラウンドという寝技のディフェンシブな試合だった。同じ会場でも行われた西日本学生新人戦では、大体大の中西健晴(体育1年)がフリースタイルの74kg級で準優勝した。

学生の公式戦すべて中止 無念の2020年

コロナに負けるな! ハンドボール男子

秋の関西リーグ戦 代替試合は1位!



大阪体育大学のハンドボール部男子は、2018年の全日本学生ハンドボール選手権(インカレ)で優勝し、昨年はベスト8。今年(2020年)は一昨年の優勝時、2年生でベンチ入りしていた選手が残り最後の年。経験者の強みを生かしてインカレ優勝を目指していたが、学生の公式戦は新型コロナウイルスの影響ですべて中止になった。

冬の交流試合は中断



「公式戦が全くなかないというのは本当に」と話すのは、下川眞監督(インカレ)と選手。その下川監督は「インカレ」がなかったことは、30試合の公式戦を戦って来た選手にとっては、大きな損失だった。

Winter match in Kansaiに出場したハンドボール部男子のメンバー

2020年11月28日からは、関西大学の交流試合「Winter match in Kansai」が開かれたが、12月に入って新型コロナウイルスの感染拡大が看過できなくなり、試合は中断した(写真はその10月28日の神戸国際大学戦)。この大会で、大体会は1、2年生を出場させて新チームの戦力を試す場にするはずだったが、出陣をくじかれた格好だ。

「雨山杯・部内大会」全大会中止を乗り越えて。 Photo of a kendo match.

西日本選手権の代替試合をオンラインで。 Photo of two women in suits.

コロナ禍で公式戦中止。 Photo of a soccer team.

大阪体育大学の剣道部は2020年12月6日、熊取キャンパス第6体育館で「大体会コロナに負けるな2020」雨山杯・大体育大学部内剣道大会を開催した。

女子の個人戦は、石井七海(体育4年)と次期主将の本田和(体育3年)が決勝戦に臨み、スパートした試合運びで本田が優勝した。

なごなは2020年度、全日本学生なごな選手権(吉本インカレ)をほぼ1年ぶりですべて中止になりました。

女子の個人戦は、石井七海(体育4年)と次期主将の本田和(体育3年)が決勝戦に臨み、スパートした試合運びで本田が優勝した。

アルティメット部の歴史が長い大阪大と日本体育大学は、今後の両チームの発展、交流促進を目指し「大体系交流戦」を企画したが、コロナ感染の第3派が到来し、これも中止せざるを得なくなった。

4年生の引退試合に部内交流戦を企画。OB・OG向けには動画配信。 Photo of a soccer team with a banner.

長い練習制限を乗り越えて

コロナに負けるな!

柔道

女子東(78キ級)、矢野(52キ級)3位入賞!
男子米永(66キ級)ベスト8

関西学生柔道体重別選手権(男子39回、女子32回) 2020年12月5日(日)～6日(月) 兵庫県姫路市・ウイング武道館

2020年度関西学生柔道体重別選手権が2020年12月5日(日)兵庫県姫路市のウイング武道館(県立武道館)で行われ、大阪体育大学は、女子の東加珠(体育4年)が78キ級で、矢野有彩(体育4年)が女子52キ級でそれぞれ3位入賞した。男子は66キ級の米永光希(体育4年)が準決勝に進んだが準決勝進出はならなかった。

新型コロナウイルスの感染 防止のため3月半ばから2カ月半、クラブ活動は中止。6月に活動再開してからも柔道部はなかなか本格練習ができず、マスクなどで組み合う練習ができるようになったのは8月。試合も中止が相次ぎ、東は「昨年2月以降の試合なので、うまくできなかったら不安があった」と話す。座席は間隔を空けて座らなくてはならず、みんなで仲間の試合を声援するのにも制限されるなど、会場は感



矢野有彩(体育4年)二左



東加珠(体育4年)二右



西尾碧(体育1年)



東(左)と矢野(右)



谷崎未緒(体育2年)



前川奈穂(教育2年)



川野柚希(体育2年)



数田亜美(体育3年)



辻彩果(体育3年)

増田3位 藪田優勝

DASHアスリート 自転車BMX

第37回全日本自転車競技選手権BMXレースが2020年10月24、25両日、大阪府堺市の大泉緑地サイクリズロン広場で開かれ、大阪体育大学のDASHアスリート、増田優一(体育1年)と藪田寿衣(体育1年)が出場した。

19歳の増田は初めて男子エリート(19歳以上)に出場し、3位になった。18歳の藪田は女子ジュニア(17、18歳)に出場し、見事、優勝した。増田は「優勝を狙っていたが、最低でも表彰ははがさうと思っていたので良かったです」とほっとした様子。藪田は「コロナの影響で長い間レースが中止されていたので、走ることができて素直にうれし。ジュニア2年目で優勝でき、着実にステップアップしていると嬉しい」と喜んだ。

生田監督「新年度も感染防止第二で」

4年生は公式戦なしで卒業することになった。4年生は試合ができて良かったと喜んでいて、大会開催に感謝。新年度も引き続きコロナの感染防止を第一にし、強化はその後。学生たちには、この経験を糧に、必ず役に立つので、プラスに考えるよう言っていると述べた。



一瀬博貴(体育4年)



岩野光貴(体育3年)



久々宮潤大(体育1年)



中村海斗(体育1年)



長谷川晃己(体育2年)



徳本千大(体育4年)



林海斗(体育4年)



米永光希(体育4年)

オータム・チャレンジ 11種目で金

コロナに負けるな!

水上競技



男子400mフリーリレーで優勝した(左から) 武田力紀、村田祥英、泉大雅、市川賢明



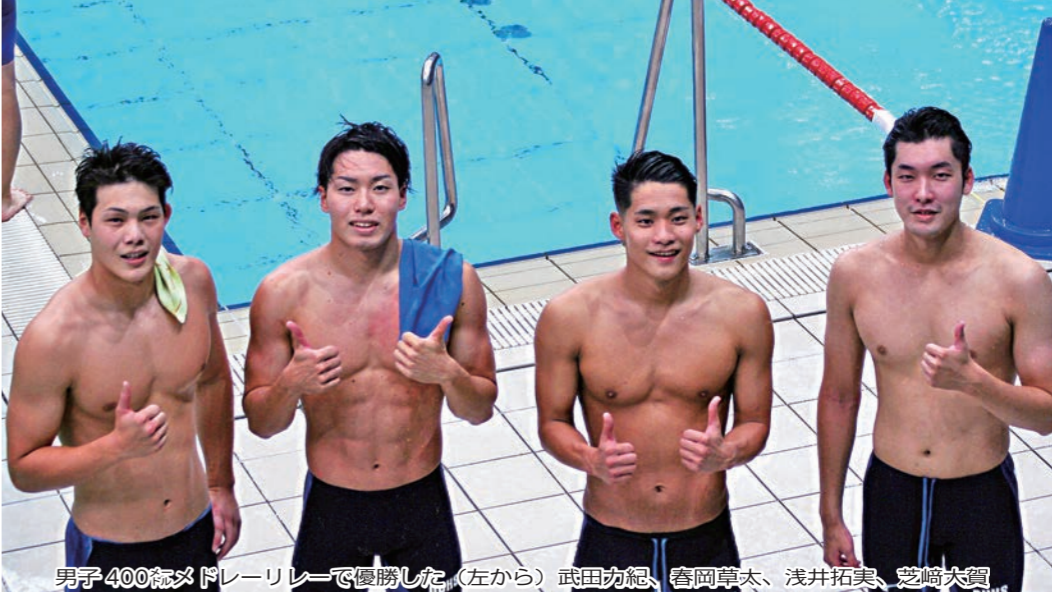
200m平泳ぎ男女V。(左から) 浅井拓実、榮楽進音



200m個人メドレー男女V。(左から) 北村祥英、青山美咲



女子400mフリーリレーで優勝した(左から) 青山美咲、河津凛子、水谷風、新山くるみ



男子400mメドレーリレーで優勝した(左から) 武田力紀、春岡尊太、浅井拓実、芝崎大樹

毎年7月に開かれている関西学生選手権水泳競技大会と関西女子選手権水泳競技大会が新型コロナウイルスの影響で中止になり、代替大会の「関西学生秋季水泳競技大会オータム・チャレンジ」が9月21、22両日、大阪市の丸善インテック大阪プールで開催された。大阪体育大学は男女11種目で優勝、水中もプールサイドも笑顔が弾けた。

尾関一将監督(男子)は「練習環境がなくなった。そんな中で学生たちは未だに目標達成に取り組み、それが素晴らしい。春からはコロナ禍でクラブ活動停止になり、ちを誇りに思っていると述べた。

◇優勝選手は次の通り◇(学部は全員が体育学部)

男子▽1500m自由形 岸田寛祐(3年)▽1000m自由形 浅井拓実(4年)▽200m平泳ぎ 浅井拓実▽1000mバタフライ 春岡尊太(3年)▽200m個人メドレー 北村祥英(1年)▽400mフリーリレー 武田力紀(2年)、村田祥英(同)、泉大雅(同)、市川賢明(3年)▽400mメドレーリレー 芝崎大樹(4年)、浅井拓実、春岡尊太、武田力紀

女子▽50m自由形 新山くるみ(2年)▽200m平泳ぎ 榮楽進音(2年)▽200m個人メドレー 青山美咲(1年)▽400mフリーリレー 青山美咲、河津凛子(2年)、水谷風(1年)、新山くるみ



藤本巧太

大阪エヴェッサと選手契約 自分の武器を生かし新たな挑戦をする

大阪体育大学のバスケットボール部男子の主将、藤本巧太(体育4年)が、プロバスケットボールリーグ「B1」の大阪エヴェッサと2020-21シーズンの選手契約をした。大阪エヴェッサでの目標として「自分の持ち味は、スピードのあるドライブ」と話している。

藤本のポジションはポイントガード。兵庫県出身



中岡啓太(体育3年)



藤本巧太(体育4年)



原真気(体育3年)



池田颯(体育4年)



下田翔(体育4年)



久保洋平(体育5年)

コロナに負けるな!
バスケットボール男子

関西リーグ1部10位 インカレ出場できず コロナ禍の練習不足響く 「新チームは泥臭く、粘り強く!」

全日本大学バスケットボール選手権(インカレ)でベスト8入を目標にしていた大阪体育大学のバスケットボール部男子は、2020年度は関西リーグ戦(1部)で12校中10位にとどまり、インカレ出場果たせなかった。リーグ戦の成績は11戦3勝8敗だった。

2020年度関西学生バスケットボールリーグ戦
2020年9月20日~10月25日
京都府向日市・向日市民体育館ほか

闘闘平(体育5年)

インカレでディフェンシブな切り込みゴールに向かう。仲間を生かす。これを武器として、今に満足せず、挑戦を続けていきた」と話している。

◆ ◆ ◆
藤本のポジションはポイントガード。兵庫県出身

で、育英高校から大体大に進学。2018年、U22日本代表候補に選ばれ、2018、2019年の関西学生選抜メンバーにもなった。今年度は大体大バスケットボール男子の主将を務め、新型コロナウイルス禍という異例の事態に見舞われた中で

くった雰囲気があった。新年(2021年)は初心に戻り、泥臭く、粘り強く、粘り強く」と話している。

2020年春は、コロナ禍で関西学生選手権、西日本学生選手権などが軒並み中止になり、戦力を試すことができなかった。公式戦がない中で、大学でのクラブ活動も3月中旬から約2カ月半停止し、学外の体育館での練習も禁止された。6月初めにスポーツ活動が段階的に再開となったが、自主練習のような形が続き、接戦プレーができたという。7月に入ってからまた、リーグ戦の開幕を前にした8月には、主力選手アデバンシ・ウリアムと期待の新人、仲田泰利(体育1年)が続いてケガをしてしまい、全体練習ができなかった。

関西リーグ戦は、初戦の立命館大学戦に99-71で勝利した後、同志社大学、関西大学、大阪経済大学に3連敗、続く興大戦は87-81、神戸医



奥村鈴(体育3年)



大吉まな(体育2年)

2回戦の日本経済大学戦は、大吉まな(体育2年)と中村有希(同4年)が連続して3ポイントシュートを決めて好スタートを切ったが、5ポイント差を切った。大木は後の出だしで5点差を詰め、最後までクロスオーバーで得点を量り、仙台大を1-3で64で降した。

3回戦の相手は大会3連覇中の東京医療保健大学。大体大は試合が進むに連れて調子が悪くなり、最終的に1-2で敗れた。

4回戦の相手は大会3連覇中の東京医療保健大学。大体大は試合が進むに連れて調子が悪くなり、最終的に1-2で敗れた。

中大路監督は「3回戦の相手、東京医療保健大は今、学生チームでは断トツ1位、トナメント戦の同じブロックに入らなければいいな」と話している。中大路監督は、昨秋、体育を取捨する村になお前監督の留守を預かる形で、2020年の監督を務めたが、新チームのスタート早々から新型コロナウイルスに苦しめられた。「1、2月はトレーニングの時期で、チーム練習は3月から。ところが3月に新生がチーム練習に加わってわずか1週間で



中村有希(体育4年)

12月の全日本大学バスケットボール選手権(全日本インカレ)は、2020年度、唯一の公式戦、インカレ前に3人が方を生かしてしまい、戻ってきたのは大会の1週間前。万全とはいえない状態で大会に臨んだ。中大路監督は「コロナ感染者が出た大会に出場できなかった大学もある。細渡りのような1年だったが、まずは感染者を出さずインカレ出場できて良かった」と話している。強化面では、天体大はチーム作りがしっかりしなければ、個々の選手が強い関係性には勝てない」と無念の思いを述べた。コロナ禍の中でのチーム作りが難しいのが、それが新年度の課題だ

中大路監督は「3回戦の相手、東京医療保健大は今、学生チームでは断トツ1位、トナメント戦の同じブロックに入らなければいいな」と話している。中大路監督は、昨秋、体育を取捨する村になお前監督の留守を預かる形で、2020年の監督を務めたが、新チームのスタート早々から新型コロナウイルスに苦しめられた。「1、2月はトレーニングの時期で、チーム練習は3月から。ところが3月に新生がチーム練習に加わってわずか1週間で

中大路監督は「3回戦の相手、東京医療保健大は今、学生チームでは断トツ1位、トナメント戦の同じブロックに入らなければいいな」と話している。中大路監督は、昨秋、体育を取捨する村になお前監督の留守を預かる形で、2020年の監督を務めたが、新チームのスタート早々から新型コロナウイルスに苦しめられた。「1、2月はトレーニングの時期で、チーム練習は3月から。ところが3月に新生がチーム練習に加わってわずか1週間で



コロナに負けるな!
バスケットボール女子

第72回全日本大学バスケットボール選手権 順位決定戦を 勝ち抜き5位

2020年12月7日~12月12日
東京都渋谷区・国立代々木競技場ほか

大阪体育大学のバスケットボール部女子は2020年12月7日~12日、東京都内で開催された第72回全日本大学バスケットボール選手権に出場。3回戦で敗れたが、順位決定戦を勝ち抜いて5位の成績を収めた。

12月8日の1回戦の相手は仙台大。出だしは力が入りすぎた面が見られたものの、キャプテン屋良(体育4年)の3ポイントシュートを皮切りに、得意とするディフェンスからの展開の早い攻撃で得点を量り、仙台大を1-3で64で降した。

3回戦の相手は大会3連覇中の東京医療保健大学。大体大は試合が進むに連れて調子が悪くなり、最終的に1-2で敗れた。

順位決定戦では、まず日本体育大学に勝利。序盤からハイレースな試合展開となり、チームの要である中村を中心に大吉らが確実にシュートを決め、92-77で日本大を降した。続く5-6位決定戦では、愛知学泉大学との接戦を制し、81-62で勝利した。

順位決定戦では、まず日本体育大学に勝利。序盤からハイレースな試合展開となり、チームの要である中村を中心に大吉らが確実にシュートを決め、92-77で日本大を降した。続く5-6位決定戦では、愛知学泉大学との接戦を制し、81-62で勝利した。

順位決定戦では、まず日本体育大学に勝利。序盤からハイレースな試合展開となり、チームの要である中村を中心に大吉らが確実にシュートを決め、92-77で日本大を降した。続く5-6位決定戦では、愛知学泉大学との接戦を制し、81-62で勝利した。

チャレンジャー魂で2021年を走り抜く!!

コロナに負けるな!

ラグビー

Aリーグ復帰の準備万端

3戦快勝 順位決定戦はコロナ禍で不戦勝



2020ムロオ関西大学ラグビーBリーグ

2020年10月18日～12月6日/大阪府・大阪体育大学ラグビー場ほか

大阪体育大学ラグビー部は2019年度、関西大学ラグビーリーグでAリーグからBリーグに転落し、2020年度はBリーグで優勝してAリーグに復帰するのを至上命題としていたが、コロナ禍に見舞われ、リーグ間の「入替戦」はなくなった。それでも、大体大はBリーグ3戦3勝し、Aリーグ復帰に執念を見せた。全勝同士の1、2位順位決定戦は、相手の龍谷大学がコロナ感染者を出したことから試合ができなくなり、大体大は龍谷大と対戦してBリーグ1位となった。中谷誠監督は「最後に最も苦戦したところでも不戦勝は残念だったが、と話を。一方、Aリーグも近畿大学がコロナ感染者を出して関西大学の最後の試合が出来ずじま。コロナ禍がラグビー界を振り回した2020年だった。

◆◆◆

グループで激しくぶつかり合うラグビーにとって、新型コロナウイルスの発現は脅威だった。クラスターが発生しかねず、大体大ラグビー部の活動も緊張を強いられた。百人を



竹永涼哉(体育1年)

大村拓人(体育3年)

田中晴哉(体育4年)

柳川正秀(体育3年)

黒木海斗(体育2年)



吉田海(体育3年)



岡本澁海(体育2年)

第71回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会

2020年の関西大学ラグビー部は、2021年1月10日～16日の「第71回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会(名古屋市内、パロマ瑞穂ラグビー場)」に出場した。例年、関西ではBリーグ5位の大学が参加する決まりの大会だったが、2021年はBリーグから参加者を募ることができ、1位の龍谷大は出場を断念し、金沢大学、東北大学、鹿児島大学に大差で勝利し、優勝した。

◆◆◆

中谷監督は「地区対抗大会への出場は選手たちへの目標設定であり、大体大の価値を高めて、春にも関西リーグ

全国春季選手権で準優勝



2020年9月18日～20日/和歌山県田辺市・田辺スポーツパークほか

決勝進出は初

第10回全国大学女子硬式野球選手権記念大会

20日、和歌山県田辺市と上富田町で行われ、大阪体育大学は準優勝した。春の大会では昨年度、準優勝したが、秋の大会で決勝進出は初めての。

◆◆◆

全国の10大学8チームが参加し、18、19日は8チームをA組とB組の2グループに分けて予選リーグが行われ、大体大はA組2勝1引き分けの1位で通過した。上位4チームの決勝トーナメントでは、大体大は準決勝で環太平洋大学(岡山県)と対戦、エースの横井千晃(体育4年)は環太平洋大を1点に抑え、押し出し死球で2-1でサヨナラ勝ちした。

◆◆◆

決勝では、予選リーグで1-1の引き分けだった尚美学園大学(埼玉県)を対戦。横井は初めての1日連続で臨んだ。五回までは尚美学園大



エースの横井千晃(体育4年)

2部団体総合

男子 **優勝** 女子 **準優勝**

2部個人総合

男子 **近江1位、上田2位** 女子 **吉田2位**

2020年10月19日～23日 広島県福山市・エフピコアリーナふくやま(福山市総合体育館)



インカレ優勝を果たし記念撮影する体操競技部男子



全日本選手権に出場した吉田菜々花(体育1年)



全日本インカレに出場した男子選手



体操競技部女子のメンバー

◆◆◆

大隈監督は「2020年度の大会で、2部になり残留を果たせず、2020年は1部復帰を目指したところ、年明け早々に新型コロナウイルス禍に見舞われ、10月になってようやく第74回全日本学生体操選手権(吉田菜々花)が広島福山市で開催された。コロナ禍という特殊な状況下で、成績によって部の降格昇格はない方針という特別ルールでの開催だったが、大体大は男子が団体総合で優勝、女子が準優勝し、1部復帰への意地を見せた大会となった。

◆◆◆

女子の吉田菜々花(体育1年)は、この大会の成績で2020年12月に開催されたオールジャパンの競技大会である全日本体操選手権に出場した。

◆◆◆

全日本インカレ、男子の個人総合は、近江奎太(体育1年)が優勝し、主将の上田颯(体育4年)が準優勝。種目別では、近江があん馬で優勝、跳馬で3位、田中久樹(体育3年)が平行棒と鉄棒で優勝した。

◆◆◆

コロナ禍で大体大では、クラブ活動が3月半ばから6月初め月末まで2カ月半停止になり、ようやく身体を動かすスラムを再開し始めた7月に約2週間の停止期間があった。男子の藤原敏行監督は「休養はともかく練習時間が長くて特殊な環境での継続的な練習が必要で、1週間以上練習を休まなければならないという状況ではあり得ない。全日本インカレ、女子の個人総合では、吉田が準優勝、飛山紗希(体育4年)が7位に入った。種目別では、吉田が段違い平行棒5位、跳馬で3位だった。

◆◆◆

女子の田原監督は「今年(2020年)はコロナの影響でこの大会もベストな調整は無理だった。高得点を狙い、逆境の中で選手らは精神一杯頑張った好成績だった。

◆◆◆

どれくらいできるか、戻るといっていいのか、かやってみないとわからない」と話。2020年春先の関西インカレ、西日本インカレは中止になる一方で、教育実習や就職活動の一方で、求職が求められ、特に4年生は調整やモチベーションの維持も難しくなるといふ。全日本インカレの成績は「想定できる内の最大限の得点だった。練習中断などコロナ禍の中で、佐藤寿治コーチの指導のおかげで選手たちは持っている力をしっかりと発揮した」と評価した。2021年は前年から先送りされた1部復帰を実現し、団体での全日本選手権出場を目指す。

◆◆◆

いい演技を目標にしたと話。クラブ活動が完全にストップした影響で「2月時点では仕がっていた技が使えなくなっていました。インカレで最高のパフォーマンスをするのは難しかった」と話。それでも大体大女子の点数は、一部6、10位の大学を上回っており、逆境の中で選手らは精神一杯頑張った好成績だった。

◆◆◆

全日本選手権に出場した吉田菜々花(体育1年)

◆◆◆

全日本インカレに出場した女子選手

ハンドボール女子 コロナ禍を吹き飛ばす 大熱戦をありがとう!!



2年連続準優勝!!



第72回日本ハンドボール選手権

2020年12月23日~27日



岡田彩愛(体育2年)



前田優(体育2年)



笠井千香子(体育4年)



笠原里(体育3年)



吉留有紀(体育4年)



高木奈央(体育3年)



石川莉子(体育4年)



川上真愛(体育4年)



柳添まな(体育1年)



相澤梨月(体育4年)



竹内琉奈(体育10年)



中川彩花(体育4年)



南夏津美(体育4年)



尾辻素乃子(体育3年)



コミュニケーションで 不安を乗り越えた

選手兼マネジャー
表と裏の両面でチームを支えた
安田七海(体育4年)

今年は新型コロナウイルスの影響で関西リーグ戦も全日本学生選手権(インカレ)もなくなり、試合を重ねながら自信をつけていく過程が踏めませんでした。いきなり日本選手権に臨むことになり、とても不安がありました。みんなでプレーの打ち合わせをみっちりやって、チャレンジ精神でぶつかっていくことを確認し、コミュニケーションで不安を克服していった大会でした。

大阪体育大学のハンドボール女子はとにかくメンバー間のコミュニケーションを大事にしています。常日頃から先輩は積極的に後輩に声を掛けるし、試合に出られない選手はプレーを客観的に見て、選手たちに「ここはもっとこうした方がいい」とか気づいたことをアドバイスします。コロナ禍でクラブ活動が停止になり、自宅待機になった時は、ZOOMを使ってメンバーと話をしていました。

私も4年間を振り返ると、試合に出場するためチーム内のライバルと切磋琢磨し、精神的にきつい時には先輩に支えてもらいました。チームとしてまとまった目標を立ててそれに向かって進む一方で、試合に出る選手、出られない選手にそれぞれ役割があります。試合のメンバーに入れなかった選手たちがやるべきこと認識して果たしているのが、大体大の強さを支えていると思います。

楠本繁生監督はただ単に目の前の試合に勝てばいいという方針ではなく、試合内容を厳しく見ます。日本選手権でも初戦の後、選手にとっても厳しい指導をしていましたが、「次につながる試合をしろ」ということです。日常的には主力メンバーだけでなく、チーム全体を見て、人間としてどうあるべきか教えてもらったと尊敬しています。

私は4年生の今年(2020年度)、選手兼マネジャーになり、マスメディアの取材の段取りや、大会の出場申請などいろいろな経験をさせてもらいました。卒業後はハンドボールから離れ、幼児保育の仕事に就きます。社会人になっても、ハンドボール部で学んだコミュニケーションの大切さや、目標に向かって努力するマインドを活かしていきたいです。

コロナ禍がなかなか収まらず、後輩たちはまだ異例の事態が続くと思います。大体大のハンドボール部女子は2019年までインカレを7連覇していますが、チームは毎年、新しく生まれ変わります。先輩たちが優勝したからと言って、自分たちが優勝できるとは限りません。「強豪」と言われるチームでも、伝統を受け継ぐには常にチャレンジ精神が必要です。新型コロナウイルス禍では「何が起るか分からない」ということを痛感しました。この経験からよりタフなチャレンジ精神を養って頑張ってください。